

2017年 12月 18日

【コラム⑮】～コンヤ『メヴレヴィー教団の街』～

12月になると世界中から人々が集まるコンヤ。皆さん、この理由をご存じでしょうか。12月7日～17日はメヴラーナ週間と呼ばれていて（Seb-i Arus Törenleri Programı）、毎年セマの儀式が盛大に行われます。「メヴレヴィー教団・セマ儀式」とは、旋舞祈禱（旋回しながら踊り、瞑想、祈禱しながら）神と一体化を求める儀式です。胸の上で、両腕をクロスさせながら、ゆっくりと旋回を開始し、ゆっくりと胸や顔をなでるようにした後、右手の平を上向き、左手の平は下に向けて広げ、旋回を繰り返します。このポーズは、手の平が上向きにされた右手から、神の精神的な恵み（愛）を授かり、下向きにされた左手で、それを地上の人々に分け与えることを表わしていると言われていています。



さて、このメヴレヴィー教団とはいったい何なのか？時代はルーム・セルジューク朝まで遡ります。メヴレヴィー教団の創始者といわれているジェラーレッディン・ルーミー（Celaleddin-i Rumi）は1207年に現在のアフガニスタンで生まれました。教育熱心な父と共に中央アナトリアにやって来た彼は、その後コンヤに移り住みます。コンヤはルーム・セルジューク朝時代に最盛期を迎え、その時代に芸術家や建築家、科学者などが各地から呼び寄せられました。ルーミーは神学校の教師を務め、かつ詩人・思想家としても名をおさめました。彼はシャムス（Shams-i Tebrizi）という僧と出会い、神への愛を学び、人生を変えるほどの影響を受けました。シャムスの死後、ルーミーは彼の教えを継ぎ、神への愛を説くスーフイズム（神秘主義）の一派を組織しました。彼の思想を支持する人々により「我が師」を意味する「メヴラーナ」はいつしかルーミーの呼び名として定着し、彼の死後、メヴレヴィーと名付けられた教団が設立されたのです。



教団はオスマン時代にも活動をしていましたが、時代が変わりトルコ共和国になってから宗教団体としての活動を解散させられてしまいました。しかし現在では歴史的な価値が評価され、貴重な伝統文化として再び復興されました。こうして、メヴレヴィー教団のセマ儀式は再び私達の前によみがえったのです。セマ儀式はコンヤにおいてもそう簡単に観ることができるわけではありません。観るための方法は二つしかないのです。一つ目は、メヴラーナ文化センターで行われる毎週土曜日の公演にて。二つ目はルーミーの命日を最終日とする12月7日

から17日にて。この期間は1年の中で最もコンヤがにぎわうお勧めの時期です。もしセマをご覧になりたいのであれば、是非12月にお越し下さい。

きっと神秘的な体験があなたを待っているでしょう。

～メヴラーナの7つの教え～

人助けや奉仕の心は、惜しむことなく、流れる川のように・・・

情け深さと優しさは、太陽のように・・・

他人の落ち度や秘密には、夜のように・・・

苛立ちや怒りには、死人のように・・・

慎み深さは、大地のように・・・

寛大な心は、海のように・・・

自分らしく生きるか、外見通りの人間になりなさい



トルコ共和国大使館・文化広報参事官室広報代理店

株式会社フォーカス